

2022 年 4 月

オオバナオケラ種

(*Atractylodes macrocephala* Koidz)

オオバナオケラ種審査基準

I. 審査基準の対象 (Subject of these Guidelines)

この審査基準は、キク科 (Asteraceae) オケラ属 (*Atractylodes* DC.) のオオバナオケラ種 (*A. macrocephala* Koidz) の全ての品種に適用する。

II. 提出種苗 (Material Required)

- i) 種苗の形態 種子
- ii) 提出時期 審査当局が指定する時期
- iii) 数量 1,000 粒
種子は、発芽率、純潔率、含水量等保存に適したものであること。
- iv) 提出する種苗は、重要な病害虫に汚染されていない十分に健全なものであること。
- v) 提出種苗は審査当局が指示した場合を除き薬剤、その他の処理をしていないものであること。もし、処理が行われている場合はその処理の詳細について記載すること。

III. 試験の実施 (Conduct of Tests)

- i) 栽培条件 特性の確認が十分にできる正常な生育が可能な条件下で実施する。
- ii) 最低供試個体数 60 個体 (2 反復以上に分割)
- iii) 栽培期間 1 生育周期
- iv) 調査方法
調査個体数 特に指示がない限り、植物体 20 個体又は各個体から採取した部分 20 個とする。
均一性は供試した全ての個体で判定する。
- 調査時期等 特に指示がない限り、栽培 2 年目の 9 月中旬以降に開花株で行う。
- v) 特別な試験 特別な条件下でのみ発現する特性があり、出願者が試験方法等を添えて申告し、審査当局がこれに同意した場合は実施することがある。

IV. 判定基準 (Standards for Decisions)

判定は、品種登録出願審査等要領の区別性、均一性及び安定性 (DUS) 審査のための一般基準に基づくものとする。

なお、均一性の判定について、他家受粉品種及び交雑品種においては、上記一般基準の第 4 の 2 (2) 及び (3) をそれぞれ適用する。

V. グループ分けに使用する形質 (Grouping of Varieties)

- i) 草型 (形質 1)
- ii) 草丈 (形質 2)
- iii) 分枝数 (形質 5)
- iv) 頭花の高さ (形質 13)
- v) 小花の色 (形質 17)
- vi) 種子の重さ (形質 23)

vii) 根茎の重さ（形質 27）

viii) 早晩性（形質 28）

VI. 特性表で使用する記号の説明（Legend）

G：グループ分けに使用する形質

(*)：品種記載の国際調和のための調査形質

QL：質的形質

QN：量的形質

PQ：擬似の質的形質

(+)：Ⅷに特性表の説明図等を示す

MG：植物体あるいは植物体の一部を集団として測定記録

MS：植物体あるいは植物体の一部の個々の測定記録

VG：植物体あるいは植物体の一部を集団として観察記録

VS：植物体あるいは植物体の一部の個々の観察記録

網掛け（特性表のピンク色の部分）：区別性審査の計画において特に有用な形質

状態区分

質的形質及び擬似の質的形質の場合、全ての状態が特性表に記載してある。しかし、5階級以上の状態がある量的形質の場合、省略した状態が用いられることがある。例えば、9階級の状態による量的形質の場合、審査基準の状態は、以下のとおりに略されることがある。

状態 (State)		階級 (Note)
(日本語)	(English)	
小	small	3
中	medium	5
大	large	7

しかし、以下の9階級の状態を品種の記述として使用できるが、その場合には適切に使用するよう留意する。

状態 (State)		階級 (Note)
(日本語)	(English)	
極小	very small	1
かなり小	very small to small	2
小	small	3
やや小	small to medium	4
中	medium	5
やや大	medium to large	6
大	large	7
かなり大	large to very large	8
極大	very large	9

VII. 特性表 (Table of Characteristics)

形質 番号	U P O V No.	記 号	形 質 (Characteristics)		定 義	調査 方法	階 級	状 態 (State)		標準品種 (Ex.Var.)	備 考
			(日本語)	(English)				(日本語)	(English)		
1		PQ (*) (+) G	草型	Plant: growth habit	開花期の全体の姿	観察 VG	1 2	直立 開張	upright spreading	都導入種	
2		QN (*) (+) G	草丈	Plant: height	2年生株の開花期における地際から頂端までの高さ	測定 cm MS	3 5 7	低 中 高	low medium high	都導入種	
3		QN (+)	茎の太さ	Stem: thickness	主茎における地際の節間の径	測定 mm MS	3 5 7	細 中 太	thin medium thick	都導入種	
4		QN	節の数	Node: number	地際から頂生花までの節数	測定 MS	3 5 7	少 中 多	few medium many	都導入種	
5		QN (*) G	分枝数	Branch: number	主茎における長さ1 cm以上の分枝の数	測定 MS	3 5 7	少 中 多	few medium many	都導入種	
6		PQ (*) (+)	分枝の位置	Branch: position	分枝が出る節	観察 VG	1 2 3	上部 中間～上部 下部～上部	upper middle～upper lower～upper	都導入種	
7		QL	小葉の有無	Leaflet: presence	主茎における最大葉の小葉の有無	観察 VG	1 9	無 有	absent present	都導入種	

形質 番号	U P O V No.	記 号	形 質 (Characteristics)		定 義	調査 方法	階 級	状 態 (State)		標準品種 (Ex.Var.)	備 考
			(日本語)	(English)				(日本語)	(English)		
8		PQ (*) (+)	葉の形	Leaf: shape	主茎における最大葉の頂 小葉の形	観察 VG	1 2 3 9	線状長楕円形 長楕円形 楕円形 その他	linear-oblong oblong elliptical others	都導入種 都導入種 都導入種	
9		QN (+)	葉長	Leaf: length	主茎における最大葉の頂 小葉の長さ	測定 cm MS	3 5 7	短 中 長	short medium long	都導入種	
10		QN (+)	葉幅	Leaf: width	主茎における最大葉の頂 小葉の幅	測定 cm MS	3 5 7	狭 中 広	narrow medium wide	都導入種	
11		PQ	葉の色	Leaf: color	葉の表面の色	観察 VG	3 5 7	淡緑 緑 濃緑	light green green dark green	都導入種 都導入種	
12		QN (+)	葉柄の長さ	Petiole: length	主茎における最大葉の葉 柄の長さ	測定 cm MS	3 5 7	短 中 長	short medium long	都導入種	
13		QN (*) (+) G	頭花の高さ	Flower head: height	主茎に頂生する頭花の高 さ	測定 cm MS	3 5 7	低 中 高	low medium high	都導入種	
14		QN (*) (+)	頭花の幅	Flower head: width	主茎に頂生する頭花の幅	測定 cm MS	3 5 7	狭 中 広	narrow medium wide	都導入種	

形質番号	UPOV No.	記号	形 質 (Characteristics)		定 義	調査方法	階級	状 態 (State)		標準品種 (Ex.Var.)	備考
			(日本語)	(English)				(日本語)	(English)		
15		QN (+)	総ほうの高さ	Flower head: height of involucre	主茎における頂生花の総ほうの高さ	測定 cm MS	3 5 7	低 中 高	low medium high	都導入種	
16		QN (+)	総ほうの幅	Flower head: width of involucre	主茎における頂生花の総ほうの幅	測定 cm MS	3 5 7	狭 中 広	narrow medium wide	都導入種	
17		PQ (*) (+) G	小花の色	Corolla: color	小花の花冠の色	観察 VG	1 2 3 9	白 ピンク 紫紅色 その他	white pink red purple others	都導入種 都導入種	
18		QN (+)	最内総ほう片の長さ	Involucral bract: length of innermost	総ほうで最も内側の片	測定 cm MS	3 5 7	短 中 長	short medium long	都導入種	
19		QN (+)	魚骨状のほう葉の数	Involucral bract: number of outer	主茎に頂生する頭花の魚骨状のほう葉	測定 MS	3 5 7	少 中 多	few medium many	都導入種	
20		QN (+)	魚骨状のほう葉の長さ	Involucral bract: length of outer	主茎に頂生する頭花の最も長いほう葉	測定 cm MS	3 5 7	短 中 長	short medium long	都導入種	
21		QN (+)	魚骨状のほう葉の幅	Involucral bract: width of outer	主茎に頂生する頭花の最も幅の広いほう葉	測定 cm MS	3 5 7	狭 中 広	narrow medium wide	都導入種	
22		QN	種子の長さ	Seed: length	種子の長径 50 粒の平均値	測定 mm MS	3 5 7	短 中 長	short medium long	都導入種	

形質番号	UPOV No.	記号	形 質 (Characteristics)		定 義	調査方法	階級	状 態 (State)		標準品種 (Ex.Var.)	備考
			(日本語)	(English)				(日本語)	(English)		
23		QNG	種子の重さ	Seed: weight	50 粒の平均値	測定 mg MS	3 5 7	軽 中 重	light medium heavy	都導入種	
24		PQ(+)	根茎の形	Rhizome: shape	2 年生株の根茎の形	観察 VG	1 2 3	結節状 横走りから不整の塊状 下方に不整の塊状	nodose thickening horizontal and irregular thickening vertical and irregular thickening	都導入種	
25		QN	根茎の長さ	Rhizome: length	2 年生株の乾燥根茎	測定 cm MS	3 5 7	短 中 長	short medium long	都導入種	
26		QN	根茎の幅	Rhizome: width	2 年生株の乾燥根茎	測定 cm MS	3 5 7	狭 中 広	narrow medium wide	都導入種	
27		QN(*) G	根茎の重さ	Rhizome: weight	2 年生株の乾燥根茎	測定 g MS	3 5 7	軽 中 重	light medium heavy	都導入種	
28		QNG	早晩性	Time of flowering	2 年生株の 50%が開花する時期	観察 VG	3 5 7	早 中 晩	early medium late	都導入種	
29		QN	開花日数	Days of flowering	1 頭花中の小花の最初から最後の開花までの日数	測定 MS	3 5 7	短 中 長	short medium long	都導入種	

形質 番号	U P O V No.	記 号	形 質 (Characteristics)		定 義	調査 方法	階 級	状 態 (State)		標準品種 (Ex.Var.)	備 考
			(日本語)	(English)				(日本語)	(English)		
30		QN (+)	精油含量	Essential oil content	2年生株から得られた乾燥根茎の精油含量	測定 mg/g MS	3 5 7	低 中 高	low medium high	都導入種	選択 形質
31		QN	乾物率	Percentage of dry matter	2年生株から得られた根茎の風乾重／生体重×100	測定 % MS	3 5 7	低 中 高	low medium high	都導入種	選択 形質

※都導入種は 1980 年に東京都健康安全研究センター薬用植物園が中国科学院植物研究所北京植物園より導入した系統。

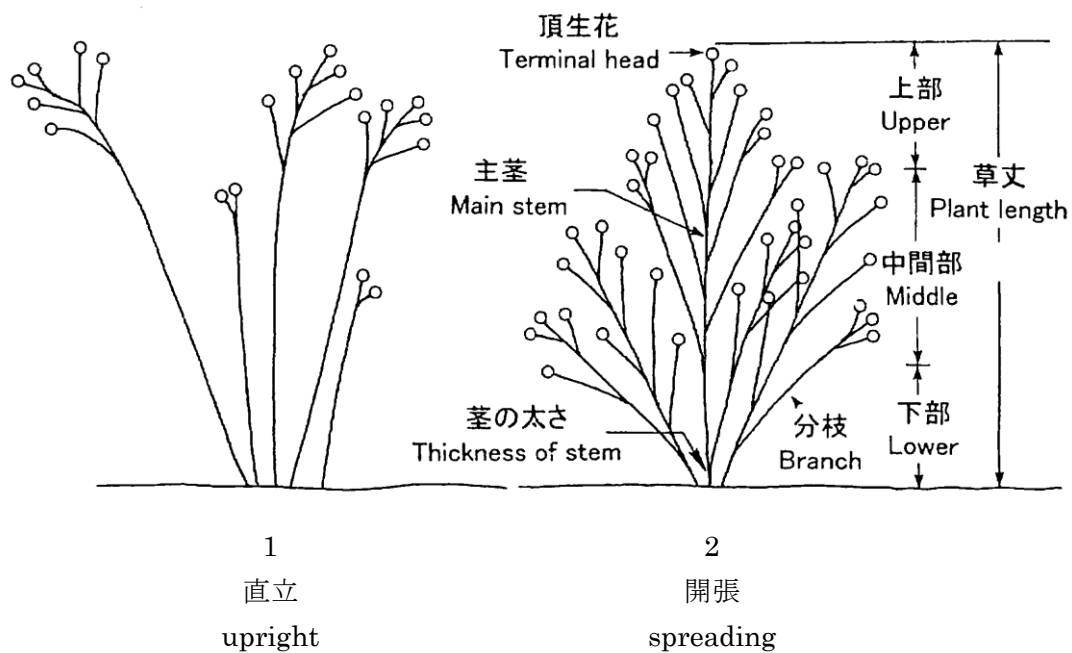
VIII. 特性表の説明 (Explanations on the Table of Characteristics)

形質 1 草型 Char.1 Plant: growth habit

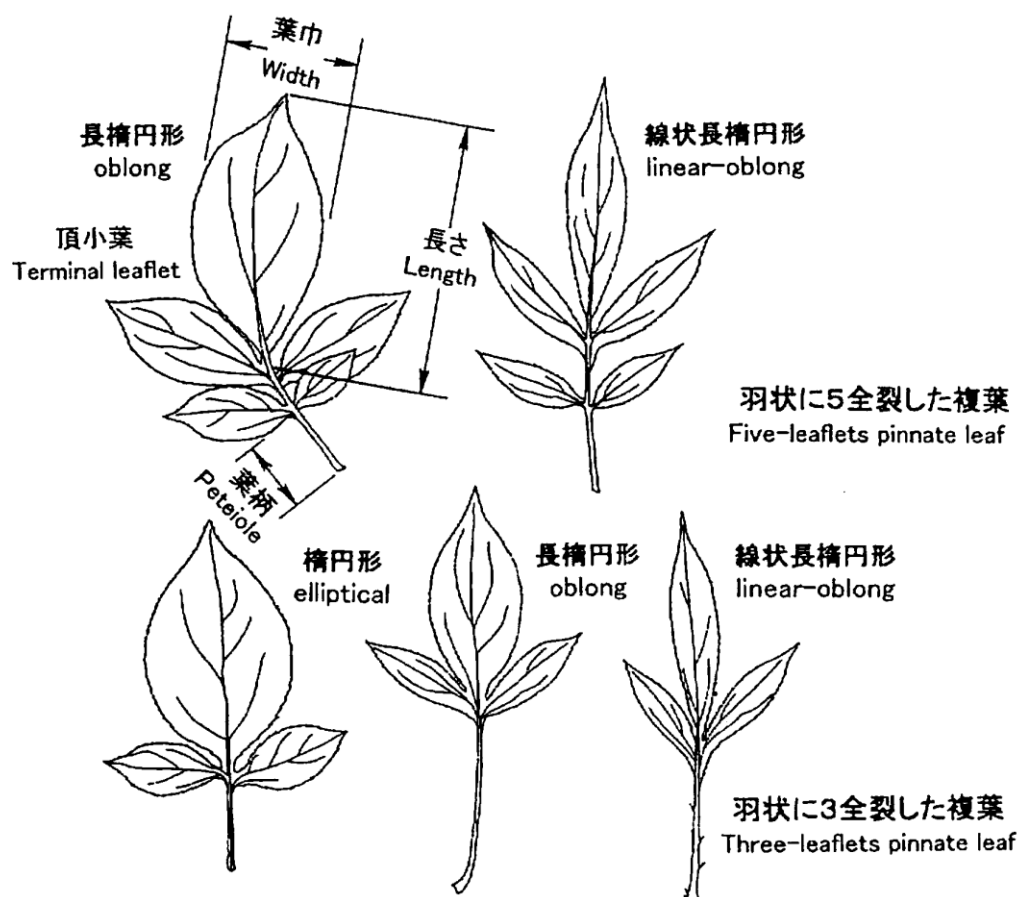
形質 2 草丈 Char.2 Plant: height

形質 3 茎の太さ Char.3 Stem: thickness

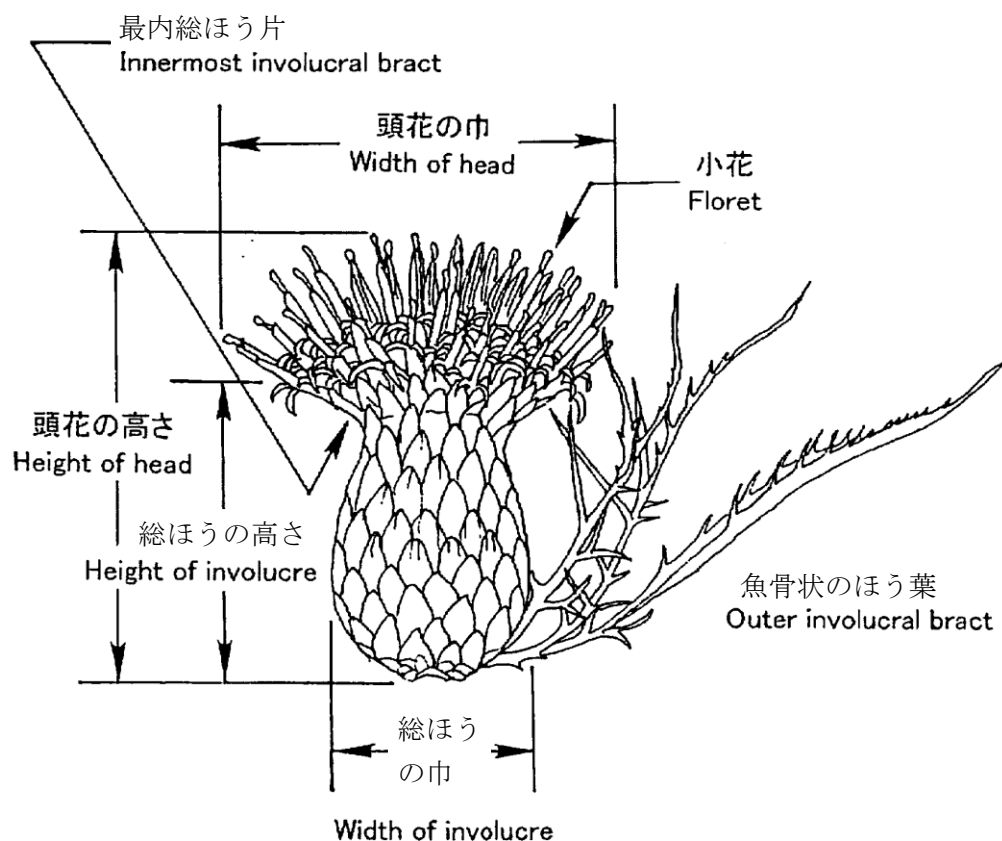
形質 6 分枝の位置 Char.6 Branch: position



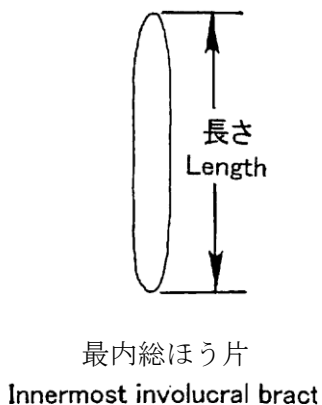
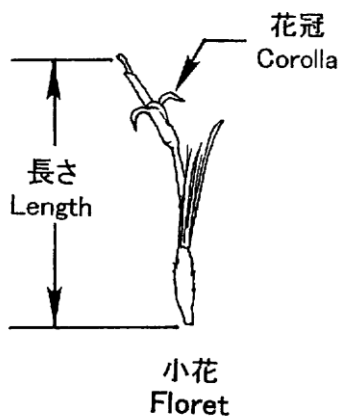
- 形質 8 葉の形 Char.8 Leaf: shape
 形質 9 葉長 Char.9 Leaf: length
 形質 10 葉幅 Char.10 Leaf: width
 形質 12 葉柄の長さ Char.12 Petiole: length



- | | | | |
|-------|--------|---------|----------------------------------|
| 形質 13 | 頭花の高さ | Char.13 | Flower head: height |
| 形質 14 | 頭花の幅 | Char.14 | Flower head: width |
| 形質 15 | 総ほうの高さ | Char.15 | Flower head: height of involucre |
| 形質 16 | 総ほうの幅 | Char.16 | Flower head: width of involucre |

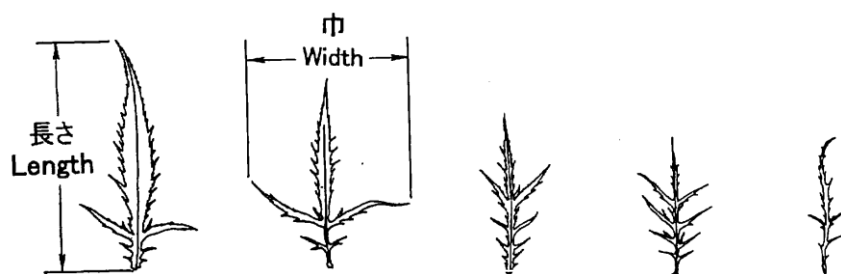


- | | | | |
|-------|-----------|---------|--------------------------|
| 形質 17 | 小花の色 | Char.17 | Corolla: color |
| 形質 18 | 最内総ほう片の長さ | Char.18 | Terminal leaflet: lobing |

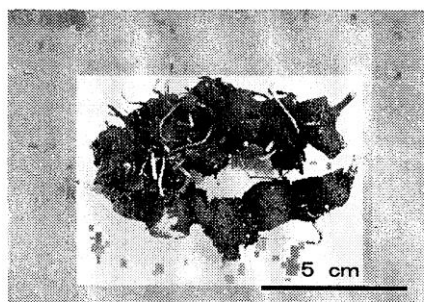


形質 19 魚骨状のほう葉の数
 形質 20 魚骨状のほう葉の長さ
 形質 21 魚骨状のほう葉の幅

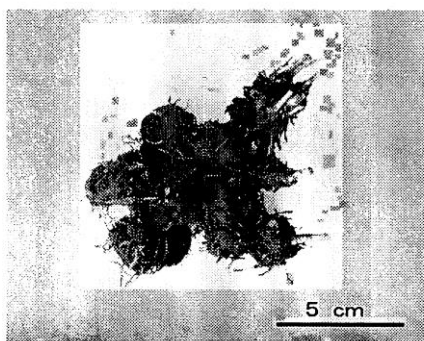
Char.19 Involucral bract: number of outer
 Char.20 Involucral bract: length of outer
 Char.21 Involucral bract: width of outer



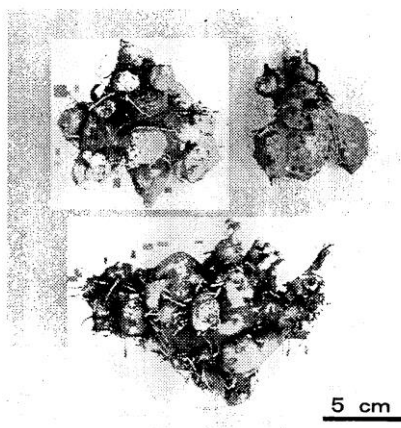
形質 24 根茎の形 Char.24 Rhizome: shape



結節状 (ホソバオケラ)
 Nodose thickening
 (*A.lancea*)



横走りから不整の塊状
 (オケラ)
 Horizontal and irregular
 thickening (*A.japonica*)

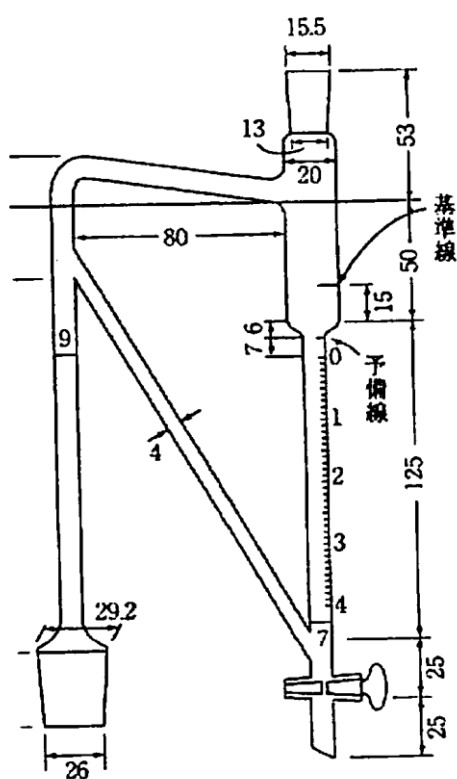


下方に不整に塊状
 (オオバナオケラ)
 Vertical and irregular
 thickening (*A.ovate*)

形質 30 精油含量 Char.30 Essential oil content

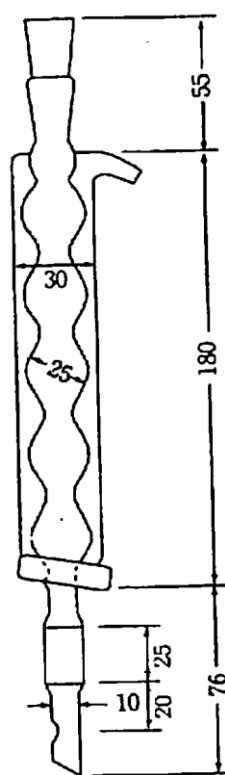
精油含量の試験は次の製油定量法により行う。

精油定量法 医薬品各条に規定する量の分析用試料を、1 L の共通すり合わせ硬質ガラスフラスコに入れ、600ml の水を加えた後、精油定量器（図 A）を装置し、定量器の上端に環流冷却器（図 B）を付け、マントルヒーターで注意して 130℃ で加熱し、沸騰させる。定量器の目盛り管には、あらかじめ水を基準線まで入れ、更にキシレン 2.0ml を加えておく。別に規定するもののほか、5 時間沸騰を続けた後、加熱をやめ、しばらく放置した後、定量器の活栓を開き、水を徐々に流出させ、油槽の上端を目盛り管の予備線にほぼ一致させ、常温で 1 時間以上放置する。次に油槽の上面を目盛り管のゼロ線まで低下させ、常温で油量（ml）を量り、キシレンの量を減じて生薬中の精油量とする。



数字はmmを示す

図 A



数字はmmを示す

図 B